



オリンピックピック125年目にして初めて

願延はできません

台風直撃 中止の悲劇

様々なメディアで懸念されている2020年東京五輪の酷暑問題。しかし、もっと恐ろしいことを忘れてはいないだろうか。そう、台風直撃だ。そもそも競技が中止に追い込まれてしまえば、元も子もない。

今年と同じ日に直撃したら

2020年7月24日、8月9日に開催されることが決まっている東京オリンピック。今年の酷暑から「五輪の華」である男子マラソンが無事に行われるのか懸念されているが、それ以上に大会関係者が危惧しているのが台風の影響である。

万が一、台風で気象条件が悪い場合、どのような対応が考えられるのか。東京五輪・組織委員会戦略広報課に問い合わせたところ以下のような回答があった。

「競技の遅延、延期、中止などが想定されます」「中止とは、オリンピッククまたはパラリンピックの閉会式までに競技が終

らないことを指しており、競技スケジュール変更委員会の勧告に基づき、IOC（国際オリンピック委員会）理事会、IPC（国際パラリンピック委員会）CEOが決定することとなります」男子マラソンは閉会式当日の実施が恒例となっており、東京オリンピックでも最終日に予定されている。オリンピック憲章は「オリンピック競技大会の競技実施期間は16日間を超えてはならない」と定めているため、最終日に行われる男子マラソンには日程調整の余裕がない。そのため、競技時間間に大型台風が直撃すれば、中止するしかないの

だ。「16年東京五輪」招致の際、都の推進担当課長を務めた国士舘大学客員教授の鈴木知幸氏は台風により中止に追い込まれるのは男子マラソンだけではないと語る。

「甲子園のように1種目しかない競技大会であれば、延期するのは簡単かもしれませんが。しかし、オリンピックでは30以上の競技が開催されます。一つの競技が延期になることで全体へ影響が出てくる。ボランティア計画や放送日時、警備体制、すべてを変更しなければなりません。そのためセーリングやサーフィンなど、台風の影響をもろに受ける競技は中止に追い込まれる可能性が極めて高い」

男子マラソンが中止となれば、第1回オリンピックから125年目にして初めての出来事である。では、東京オリンピック開催期間の7月24日

8月9日に台風が関東に直撃する可能性はどれくらいあるのだろうか。横

になる。梅雨明けはすなわち台風シーズン入りの意味するのです。そのた

科学の力によって台風を無力化することはできないのか。実際、北京オリ



近代オリンピック

甲子園と違って 順延

東京五輪を 男子マラソン

クまたはパラリンピックの閉会式までに競技が終

間に大型台風が直撃すれば、中止するしかないの

では、東京オリンピック開催期間の7月24日

8月9日に台風が関東に直撃する可能性はどれくらいあるのだろうか。横浜国立大学で気象学を研究する筆保弘徳准教授が説明する。

「関東では梅雨明けが平年7月21日頃ですが、その前後で北西太平洋上空の気流の流れが大きく変わります。太平洋高気圧が活発になり、台風が一気に南から北上するよう

科学の力で台風を制御？

さらに懸念されるのが、温暖化による台風の強化だ。

「過去100年の台風について調べた結果、上陸数はさほど変化がないのですが、2000年以降、強い台風の上陸する割合が増えていることがわかりました。台風は海面水温が高い海上で発達するので、温暖化によって海面水温が上がると強くなりやすい。また、これまでは北西太平洋の、日本

になる。梅雨明けはすなわち台風シーズン入りを意味するのです。そのため、東京オリンピック期間中に関東に台風が襲来することは十分に考えられます」

今年も8月8日から9日にかけて、台風13号が関東地方に接近し、暴風雨をもたらしたばかり。まさにこの期間は東京五輪の真只中にあたる。

よりはるか南の海上で発生した台風が北上するにつれだんだんと弱まり、少し弱くなったものが日本にやってきていました。しかし、このまま温暖化が進行し、日本の南のすぐそばの海まで海水温が高くなってくると、台風が発達したままやってくる可能性が高まるのです（前出・筆保氏）

強大な台風が来ても、大会の延期ができない絶望的な状況。それでは、

科学の力によって台風を無力化することはできないのか。実際、北京オリンピックでは「晴れ」を人工的に作り出す試みがなされた。

08年8月8日、北京オリンピック開会式当日は雷雨の予報だった。そこで、中国当局は、開会式に先立ち、北京市内や周辺都市から合計1000発以上のロケット弾を雨雲に撃ち込み、ヨウ化銀を散布。ヨウ化銀は氷の結晶と形、性質がよく似ており、雨粒を成長させる効果がある。その性質を利用して、雨を早く降らせてしまい、会場上空に来る前に雨雲を消失させてしまおうという計画だった。この「人工消雨」作戦が功を奏したのか、開会式の間帯の北京市内は見事に晴れとなった。

これと同じ要領で、台風の風雨を科学の力によって事前に防ぐことはできないだろうか。